

# サロン・あべの

<サロン・あべの> NO. 27

昭和63年 9月17日(土) 発行

△サロン・あべのV八月の出会い

## あべのカーニバル なんでも市 参加

残暑とは云え、さわやかな風が吹き、カーニバル日和りとなった昭和六三年八月二十八日(日)午後三時より、阿倍野区役所裏にある市立工藝高校グラウンドに於て、第一五回「あべのカーニバル」が開催された。

トランペットのファンファーレがまぶしい青空に吸いこまれていくのを耳にしなが、川なんでも市に参加のサロン・あべの店は、多くの

お客様を迎え、販売にてんてこまいをしていた。

あべのカーニバル「なんでも市」参加は今年で三年目。一昨年より昨年、昨年より今年と、皆様の厚意で輪がどんどん広がり、物品を寄贈してくださる人、備品を貸してくださる人、いろいろお手伝いをしてくださる人など、ひと回り大きい善意の輪を広げてくださったことは、ありがたいの一言につきる。

た。

空は澄み、秋の色をしていたが、きつい陽ざしはまだ真夏の顔そのもので会場を見おろしている。四八店が横丁を作る「なんでも市」は、祭りの縁日そのもの。親子ずれ、夫婦ずれ、にぎわいの中、あちらの店、こちらの店とのぞいて歩き目当ての品を捜し出す。楽しい遊び、企業ピアーアル、チャリティーバザール等と各店それぞれにおもむきがある。

サロン・あべの店は、地域の方々とのお出会い・ふれあいを目的にサロン活動のピアーアルと活動資金調達のために出店し、一回大いに張り切っ

三時の開会を待たないで、サロン・あべの店は並べる時からお客様が入ってこれ大にぎわい。自信を持って付けた値段であっても、お客様によっては、もっと安くならないかと云われる。そんな時は、まだ販売時間ではないのでと、お断りをして準備を進める。善意でサロン・あべのの為に提供くださった品々を大切に扱いたいと思う。また、中にはおつりはカンパですと云ってくださる方もおられる。かと思つてカンパ箱は置いていないのと聞いてくださる方もあった。お買い上げの品物を渡す時、本紙二六号も一緒に手渡し、読んでいただくようお願いをした。

障害者が地域参加を希う時、そこには温かく受け入れてくださる健康者の思いがなくては、その希いは、はたせない。障害者を障害者として受け入れるのではなく、共に生活している一住民、隣人として、ふれあっていただけよう、サロン・あべのは、様々な角度から障害者を語って

いきたいと考えている。

「やあ、元気？」「ガンバッテヤ」お顔なじみが増えて、笑顔が次々とのぞいてくださる。又、サロン紙を通しての知人は、日曜日ということもあり、遠くは和歌山市からもかけつけてくださった。

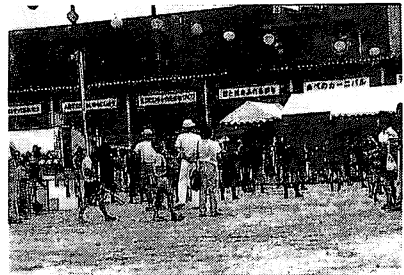
舞台からの歌声に心が踊り、各店のにぎわいに顔がほころぶあべのカーニバル。販売に携わってくださった方々は、大忙しで、他を見てまわるヒマもない有様。そのおかげで夕日が沈む頃には、八割方が売れ、残りを一気に大安売り。七時前には、きれいにかたずいた。

ナイターの明りの中、ほっと一息入れてポツポツ片づけられていく。なんでも市川を見渡す。「あ、会場は広いな、今年も見えてまわれなかったなあ」と。

好天に恵まれ、人出に恵まれ、多くの提供品に恵まれ、多くの協力者に恵まれ、サロン・あべの店は昨年を上まわる収益を上げることが出来た。



## 夏を飾る あべのカーニバル



# ご協力感謝

ご協力いただいた方々のお名前

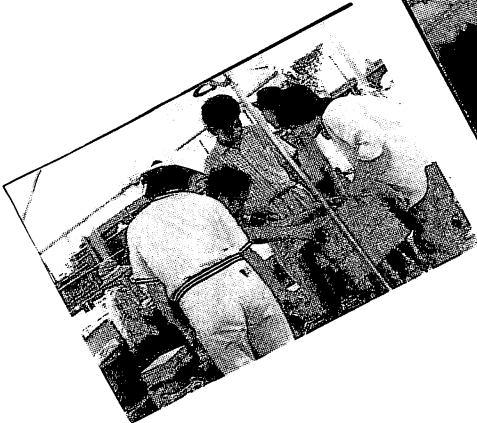
(五十音順・敬称略)

旭 純子、安達尚子、石田 律・元・惣、  
石田花子、伊勢村和子、大岩和昌男、大島  
功、大塚一枝、柿岡 緑、角方(文の里手  
話グループ)、金岡千恵子、河合恵子、北  
原喜久、斉藤孝文、阪口悦子、里山通子、  
皿谷千秋、鹿野敬一、大丸昭典、田上 稔、  
竹下秀樹、田中マサエ、辻本輝子、津村孝  
子、出口正敏、富田慶子・十一・御喜代・  
実幸、永井美智子、中原友喜、中西利香、  
原田 仁、蛭子フサエ、毎川雅子、前田博  
子、松井悦子、美千由会(木寺ちよこ)、  
町野旬子、松森美智子、丸山寿美子、森田  
ゆきえ、水戸春子、水野千鶴、柳生幸子、  
山本敏子、山本ハツエ、力武晴代。  
その他匿名の方五名。

あべのカーニバルリなんでも市リでの  
△サロン・あべのV バザー売り上げは、  
金八八九九〇円でした。

ありがとうございました。

△サロン・あべのV会計



車イス常用者住宅を訪ねて

富田慶子

七月のサロンに出席された方から、車イス住宅についての話を伺いましたが、話だけではものたりず、物見高い気持も手伝って「百聞は一見にしかず」と、住吉区長居にある府営住宅の車イス常用者世帯向き住宅に住んでおられるS氏をお訪ねしました。

ここは、JR阪和線の鶴ヶ丘駅より西へ十分足らずの位置に有り、昔は庭付き木造平家の府営住宅があった場所で、昭和五九年より鉄筋五階建ての団地として新しく建替えが行われました。この団地の九、十一棟の一階両袖、もしくは、片側に車イス常用者住宅があり、八世帯が住んでいます。

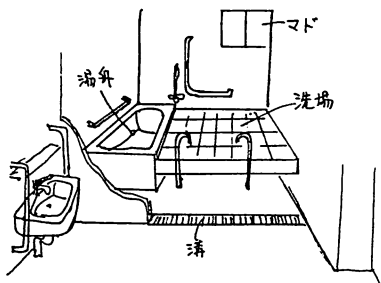
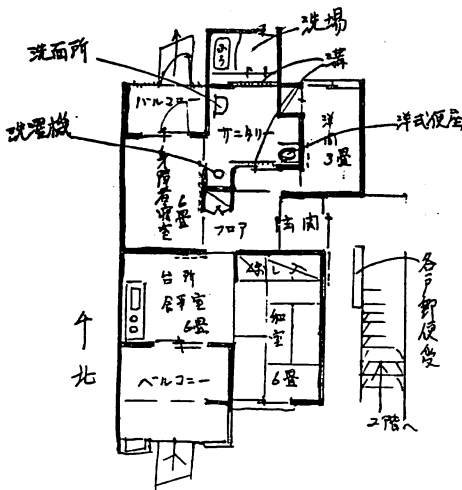
その一軒にS氏が昭和五九年より入居されています。団地の門を入れて南向きの端にその住いがあり、草木の咲きさそうべランダの前を通り、一般住宅への階段下の奥に車イス住宅が向かい合っておりあります。

幅広い引戸を開けると内玄関のタタキ、それに続くフロアーは段差がなく奥へと伸びています。このフロアーを中心にして、居間・台所・寝室・サニタリー室・予

備室と時計まわりに位置しています。

先月のサロンの話しあいの中でも一番關心を持たれ、必要とされたのがトイレと風呂場の改造でしたので、まず、サニタリーゾーンを拝見しました。目に止ったのが出入口の幅が広いこと（これは車イス使用者用としては必要な広さなのでしょう）、水まわりが必要な部屋なのに段差が全く無く出入口幅いっぱいには溝が造られてあり、目の細かい溝ブタがさがされています。ここで一気に水を排水出来るようです。しかし湯気は、後もどりしてくるので湿気は多いとのことでした。入口の右側に洋式便座が両側に手すりを備え付けて位置していました。左側の少しくぼんだ所は、洗濯機置場。こ

車イス常用者世帯向住宅



この排水は入口の排水口の中にホースさしこみ口があり、そこへさしこまれていました。洗濯機置場と洗面所の間に寝室への引戸があり、直接出入が出来るようになってきます。（フロアーに出なくてもいいということ）洗面台の両側にも太い手すりが付いています。洗面台の高さは入居前に使用する本人に合わせて調節し、取り付けてもらえるそうです。台所の流しやガス台もこの特別使用仕立で調節し、付けてもらっているそうです。住宅に当選してから訓練に行くそうです。サニタリーゾーンの床はすべり止めのあるタイル張りです。正面奥が風呂場になっており、その境目にも細長い溝ブタがありました。大きな水の流れは、

ここで排水されるのでしよう。洗い場は、車イスと同じ高さになっており、タイル張り床下は車イスの前輪が入るように深く切りこんでいました。洗い場正面に二本の手すりが付いており、これを支えに移動。正面の壁には、L字型の手すりが付いている。左側は湯舟、洗い場から滑り込める。湯舟の左側に手すりが一本付いている。これはS氏が任意で出入がしよいように付けられたそうです。湯舟の人の介護がしやすいように、湯舟の手前が一人一人入れる空間があります。洗い場上がりこまなくても、立ったまま両方の介護が楽に出来ると思えました。しかし、足の曲がらない人には、洗い場手前に付いている手すりは邪魔になるだろうなと感じました。両足がマヒされた人には、必要かもしれませんが、必要でない人にとっては、あの頑丈な手すりを取りはずすのは大変だろうなと思えました。洗面所の水道の栓は、レバー式でしたが、私には固くてちょっと動きませんでした。

三カ所給湯で、風呂と洗面所・台所に湯が出るそうです。

サニタリーゾーンの向かい側が台所・居間の入口。台所は南向きで大きなガラス戸

がベランダいっぱい開いて、とても明るく陽当りが良い。台所の流し台とガス台は使用者の高さに合わせて付けてもらっているとのこと。この台の下も車イスの前輪が入れ易いように空いている。この水道の栓もレバー式であったが、蛇口の所に給水調節が出来る器具が任意で取りつけられていました。冷蔵庫に水屋、中央にテーブルが置かれた部屋は広く見えていても、車イスでの移動は窮屈だそうです。このリビングに和室の居間が続いています。和室の段差は四五センチ位。車イスの座席の高さに合わせてあるそうです。一間半の押し入れが付いている。窓は南向き、物が取りやすいように手近なところに置いてしまうので、つい、乱雑になってしまうことでした。リビングからベランダへ出るのも引戸（アミ戸）で段差もなく出やすくなっていきます。四〜五畳の広さがあるので洗濯物やふとん干しが気持よく出来そうです。ベランダの外は、団地の道になっているので、玄関を使用せずベランダから出入をしていると云われるS氏の言葉になる程と思いました。洋室の六畳は、S氏のプライベートルーム。北側にベランダがあり、外へ出られる

スロープも付いていましたが、非常用位にしか考えていないので、使っていないとのことでした。パソコン・ワープロ・無線機・ステレオ等、それにワイヤレス電話と活動的なS氏の原動力をも拝見しました。

この部屋は、フロアとサニタリーゾーンへと二つの出入口がある為か、押し入れが無いのが不便とのことでした。その代わりというのでしょうか、フロアに物入れがありました。最後に玄関横の三畳の洋間をちょっと拝見。ここは、物置きになっているとのことでしたが、北側いっぱい窓があり、半間の押し入れが付いていました。一見広そうに感じられた間取りも、車イスで動きまわることを考えますと狭さを感じられ、家具類等は極力置かないようにしているとのことでした。

ここは、立地条件がよく、近くにスーパーもあり、住みやすい。長居の身障者スポーツセンターへも行きやすいし、阿倍野へ出るにも出やすい等々とのことでした。

おうかゞいした時は、気がつきませんでした。玄関フロアで思いがけないリン・リンと涼しげな鈴虫の音色におくられておいとましました。

## 地獄を想う心

地獄という言葉があるが、それは想像を絶するほどの辛さ、酷さを人に与える環境をいうのだと思う。

私が地獄という言葉を書きいて、まさききに思いうかべるのは、数年前ある児童相談所の所長から聞いた性的児童虐待のケースである。

それは、いまここに書くのも辛くなるような話だ。父と母と娘二人の四大家族で、父親が長女に性関係を強いている。長女はまだ小学六年生だった。父親が求めると、長女は自分の身体を引き裂くほど、激しく鋭い声で泣き叫び、もがいて、抵抗するのだが、父親の続けざまの殴打と腕力に負けてしまうのである。

母親はただただ震えながら押し入れの中に入ってしまった、娘の悲痛な叫び声が耳に入ってくるのを恐れるように両耳を強く押さえてうずくまっている。次女の方は、父が離れたあとと独り泣き伏している姉を、なにか汚いものでも見るように避けているのだが、自分の身体の成長につれて、いつか

自分も姉のようになるのではないかという不安をもっているのがあった。

ああ、それが毎夜のように続くのだとしたら、それを地獄と言わないで何と言えるのか。この長女の胸には、少女らしい初恋のときめきや、読書の楽しみ、友達との話合いの期待があるのだろうか。自分でも正体のつかめないほどの恐怖や憎しみ、罪悪感や絶望感が、もはやこれ以上何も受け取ることができないほどに彼女の心をおおっているのではないだろうか。

この少女にとって安らぎの場はどこにあるのか。父親は自分の身体を欲望の対象とし、母親は逃げ、妹は避けている。彼女は誰にも決して言うことができない思まわしい思い出を、このまま一生独りで背負って生きていかなければならないのだろうか。

これは地獄のひとつの例である。このような地獄はまだまだあると思う。地獄を体験した人は、たいがい地獄に押しつぶされる。地獄によって自暴自棄になったり、自分の心に無感覚になったりする。そこから逃れることができて、ひたすら、その忌まわしい過去から逃げようとする。思い出

すまいと努める。地獄とはそういうものである。地獄の力はそれほど強いのである。

だから、この社会から地獄をできるだけ少なくすることができるとは、地獄を体験した人であるというよりは、むしろ未だ地獄を体験していない人であろう。それは『地獄を想う人』である。『地獄を想う』とは、地獄はどんなに酷いものであろうかと想像することである。

地獄を想像することは、それだけでも不快なことであろう。しかし、地獄において人はどのように苦しみ恐れているかを想像することは大切なことだ。それこそ人類を救う想いであろうと思う。いや、それどころか、地獄を想うことを知らない心は、たとえ悪意のない様子を装っても、ひどく罪深いものではないだろうか。

やや唐突だが、私は先週、韓国に旅行していた。そこであるユースホステルで同室になった日本の青年が『ここでは一晩二千元で（女が）買えるんですよ』と、何か嬉しい発見でもしたかのように言ったことを思いだす。彼は、そうして皆を誘っているのだが、その青年の悪気のない人なつこい笑顔のなかに、地獄を想うことの知らない罪深さを私は感じたのである。

国連の報告によれば、女性が売春をする最大の契機は、近親相姦を含む性犯罪の被害を受けたことだという。地獄を体験した人は、地獄を想うことの知らない人によって、ますます傷つけられ、苦しみ、生きていくのだろうか。

### △サロン・あべのV紙連続入賞

第一六回福祉広報紙コンクールに応募したところ、△サロン・あべのV紙は「優良賞」に今年も入賞しました。

九月二一日府立青少年会館文化ホールで表彰式があります。

昨年に続き、二度目の受賞となりました

のは、石田氏の編集の力もさることながら

△サロン・あべのV紙を読んで下さる方、原稿を書いて下さる方々のご支援、ご協力があってこそその受賞と感謝しています。

父親が自分の身体を貪り食い、母親が恐れて押し入れの中で震えているのを見た少女は、この世の一切を憎むようになるかもしれない。私はそこにより恐ろしい地獄を見るのである。

その少女が女となり、支えてくれる家族もなく、身も心もボロボロになって、なおも生きつづけようとするとき、彼女はどこに生きる場を見つけられるのだろうか。そこで彼女がたとえ、自分の肉体を金で売ることを承諾しても、誰が彼女を責められるのか。誰が彼女を軽蔑できるのか。

そんな地獄を体験してきた女たちが、きつとたくさんいるのだ。そんな彼女たちを『二千元で買える』と笑顔で言う青年に出会ったとき、私はそこに地獄を支える罪を見たような気がした。

地獄はある。地獄は確かに存在するのだ。しかし地獄にある人には出す声がない。また、過去、地獄にあった人は思い出すことさえ避けてしまうことが多い。そして地獄をまだ全く経験していない人は、地獄を想うことのない心で、地獄を支え続けているのである。

地獄をなくすのは、地獄を想う心である。地獄はどんなに酷いものであろうと想像する心である。地獄を想うことには不快な感情がつきまとい、そのような不快な感情をあえて身に受けることは人間として不自然なことだと思われるかもしれない。しかし、地獄を想わないことは地獄を支えることだと知っているのである。地獄を想う心とは、未だ自分の気づかない罪をわびる心なのである。

(短)

## THE DEAF MUTE

17

旭 純子



手話通訳をめぐる問題点(三)

大阪には「大阪ろうあ会館」が昭和五十二年に開かれ、府や市の委託事業の事務局として機能し、ろうあ者福祉事業のセンター的役割を果たしている。ここには昭和六十一年現在、手話通訳者、生活指導員六名が勤務している。このほか府下一九市に二六名の「ろうあ者福祉指導員」が設置されている。しかし、通訳生活相談のニーズは年々増加の一途をたどっている反面、通訳者、生活指導員の設置数は増員されず、ろうあ者の要求に応じきれないばかりか、職員の健康上の問題までが生じている。

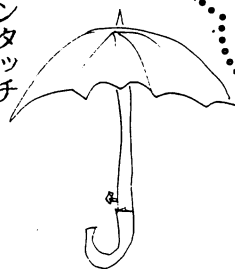
さて手話通訳者の勤務形態は非常勤嘱託という不安定な勤務が多い。さきの「ろうあ者福祉指導員」のうち二名は週二三日の非常勤である。これは「手話通訳設置事業要綱」中の「月二回以上」という勤務規定を充てはいるが、ろうあ者のニーズがいつ起こるのか予測できるはずもないことから緊急のニーズに対処し得るよう、常勤にすへさであろうと思われる。

また、ろうあ者の多様なニーズ、それは、よろず相談の要素が強いが、そういったニーズに応えるため、通訳者や生活指導員は手話技術以外に幅広い知識、情報を持ち、社会資源の活用能力や福祉の専門教養と相談技術を有することが必要であると考えられるが、実際には手話技術偏重の登用が多く、福祉的教養や相談技術も持たないまま、「経験に頼る」という傾向がみられる。そこで登用後の再教育や研修が必要となってくるが通訳者、生活指導員の絶対数の不足から、ケース対応に忙殺されて時間的余裕がないという状況にある。それ故、ニーズに応じた対応が出来るよう、他の関係機関との連携を密にすることが必要となってくるが、大阪の場合、関係諸機関がろうあ会館や事業の存在すら知らない場合もあるというのが現状である。

# なんとか してやらば

中西利香

窄める時もワンタッチ



私だけではないと思います。考えてみたら、握力の弱い人達は不自由することがたくさんあります。例えば、ノブを回しながら開閉するドア、回しながら開ける瓶などの蓋、爪切りもそうです。タオルを絞る時にも自分では、力を入れているのになかなか思うようにできません。

もっと困ることがあります。ワンタッチ傘です。開く時には片手が荷物でふさがっていても、握力不足でも、ボタンひと押しパシッと開きます。その名の通りワンタッチでok、至極簡単便利なのがワンタッチ傘。ここまで考えるなら窄める時もワンタッチ、ボタンひと押しでできるようにし

て欲しい。

なかには、窄める時もバネの力でワンタッチ式の傘はあるのですが、腕の力がないとできません。

ワンタッチの傘はバネの力で広げている

山本 篤江 私の京都国体(3)



サロンの皆様の心あたたまる文章を読ませていただき、ものすごく感激しています。私みたいな者に、ここまで応援していただき、嬉しいやら、責任重大やらで、今更ながら選ばれたことの重たさを、ひしひしと感じている今日この頃です。

泣いても笑っても、後二ヶ月もないのですが、先日、自分の不注意で発熱してしまいました。ヤッパリ、年です。体力がないのかなー、なーんて情け無くなりました。そして、みんなの期待に応えられるかなー、そんなことを考えていました。その時調度、糀谷さんの「篤ちゃんガンバレ！」

ので、窄める時は従来の傘よりもっと握力があるのです。一生懸命窄めようとしてもなかなか窄まりません。傘の水滴はかかるし、シクハックしてしまいます。

・・・なんとかなりませんか。

を読み、どれだけ励まされたか分かりません。「仲間っていいな」柄にもなく、オセンチになってしまいました。

気持ち新たに、十月に向けてがんばるつもりです。これからも、見捨てないでください。私の顔、忘れないでください。



『あっちゃん、がんばれ!』

ニッティング・サロン・友  
川 嶋 雅 恵

山本篤江さんが、電動車椅子の種目で国体に出られると聞いて、ホッと安心したのは私だけでしょうか。

手編みの講師として、彼女がニッティング・サロン・友という編物教室と一緒にやっつて、五年位になりますが、私は彼女のたぬにおちこむ事が多々ありました。例えば、教室内では机や他の車椅子が置いてあるた



め、通路は迷路の様になります。生徒さんの「先生、ここが分かりません。」と呼ぶ声にもスイスイと、いとも簡単にその道を通り抜けて行く彼女です。私などは、あちらにぶつかり「あっ、ごめん。」と言ひ、こちらで「その椅子、どけて！」と叫び、生徒さん達を右往左往させ、ドンガラガチャンと大きな音をたて、賑やかこの上なしです。又、生徒さんの中には電動椅子を利用しておられる方も沢山いますので、私のようにあまりうまく操縦できない者がいると、交通渋滞を起してしまいます。山本さんは、優しいので手伝って交通整理をしてくれるのですが、私にすれば、どうして



こんなにもうまく乗りこなせないのかと、自分に腹が立つ始末。だから、彼女が国体への出場が決った時、彼女のために嬉しかったのは勿論の事、実を言うと私のためにも嬉しかったのであります。これで、自分が下手でも、山本さんは大阪中で選ばれた腕前を持っているのだものと、言訳が立つというものです。

聞くところに寄りますと、とりわけ今度の国体は重度障害者のための種目を初めて取り入れたものだそうです。今まで私達重度障害者は、社会からスポーツなんて関係ないと言ひ感じて考えられて来た様ですが、どんな人でもいろんな楽しみを持ちたいのは、当たり前です。私達でも出来るスポ

ーツの枠を広げる第一歩としても電動椅子使用者の代表としての山本さんに、活躍を期待しています。

練習は辛いだろうけど、持前のフアイトと、いつも皆に接する時のあの細やかな心使いを持って、がんばって欲しいと思います。出場が決ってから、毎日の様に試合の練習のため、長居のスポーツ・センターに通う彼女は清楚なお嬢様から、すっかり小麦色の肌のスポーツ・ギャルに変身しました。又、前と違った魅力を身に着けた様です。人が何かに打込んでいる姿は美しいと思います。私も来年春には、グループホームを自分達の手で作りたいと考えています。そのために今年一年が私にとって重要な時期なのです。形は違っても山本さんに負けずに頑張りたいと思います。あっちゃん、できたら日本一になって私の言訳の種をもっと殖やして下さい。当日は、のぼりを立てて教室の皆で応援に行こうかと言っています。但し本人は恥ずかしいから、のぼりだけは、やめてと言っています。

あらためて心よりのエールを送ります。フレ、フレ、あっちゃん!!

# おしらせ

十月のサロンは、あべのボランテニア・ビューロー主催のボランテニア・スクールを受講されている方々と一緒に秋の長居公園で散策を楽しみたいと思います。

多くの人達との出会いの中から、温かいふれあいが生れます。

皆様のご参加をお待ちしています。

日時 十月二十九日(土) 十一時～二時

場所 長居公園

内容 みんなで集う交流会

「長居公園へでかけよう！」

集合場所 あびこ筋か現地

バス送迎(リフト付き) 西田辺

長居公園間往復。

会費 実費(昼食代として三〇〇円)

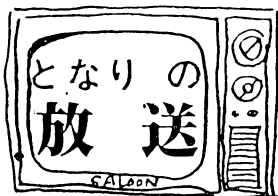
申込み期日 十月一五日迄

サロン・あべの関係の申込み先

TEL 六一九一〇二八富田迄

\*詳しいご案内は、お申込みの方々に再度お知らせします。

日々のよろこび添えて  
ハサロン・あべのVに贈るリ灯饰  
八月のカンパ合計六〇〇円  
ありがとうございました。



## 編集後記

物品を寄贈してくれはる人。準備を手伝ってくれはる人。売りに来てくれはる人。をお願いしたところ、心よくご協力いただきました。お陰様で大成功でした。

過去2回以上に、りっぱな「バザー」になったひとつには、輪のひろがりがあると思います。ひろがった輪の中に、期せずして、同級生の名を見つけ、ウン十年振りに旧交を温めた話。会場で手渡された本紙をみて「やっぱりあんたか! 前号に載ってたは」と話しかけられたのが、ごくごく近所の人だった話。サロン・あべのの輪は着実にひろがっています。(石)

あべのカーニバルの折りに、伊勢村さん・丸山さんより差し入れをいただきました。又、小西さんからは、切手をいただきました。ありがとうございました。

「障害者は今…」

体操フェスティバル

日時; 10月2日(日)

88 OSAKA

受付; 午後1時より

日時; 10月15~16日

開会; 午後1時30分

pm. 12:30~

場所; 大阪市立中央青年センター4F.

場所; 大阪府立体育会館

内容; エアロビクス

TEL. 06-943-5021

(中西利香さんが出場

交通; JR又は地下鉄森の宮駅西徒歩10分

されます。ぜひご来場下さい。)

主催; 走り歌お大運動会

前売券; 1000円

後援; 青年教室

当日券; 1500円

問い合わせ先; 乾 淳一

TEL.0727-72-1505

### <サロン・あべの>第27号

発行日 昭和63年 9月17日(土)

発行・編集<サロン・あべの>運営委員会

[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26

電話(06)691-1028富田慶子]

印刷 セルフ社 電話(06)652-0337

[阿倍野区阿倍野筋4-18-19]

定価 ￥60.